

学生注目！

サークル・課外活動

ジェンダー・セクシュアリティ

DE&I ガイドブック



個人・幹部として わたしたちにできること

アライサークル
プロジェクト

GSセンターってなに？ What is the GS Center?

GSセンターは、早稲田大学のLGBTQ+（性的マイノリティなど）学生や、ジェンダー・セクシュアリティに関心のある全ての人（アライ含む）の居場所であり、誰もが自由に利用できるセーフスペース兼リソースセンターです。2015年3月Waseda Vision 150 Student Competitionにて、『日本初！LGBT学生センターを早稲田に！』と題した企画が総長賞を受賞しました。それをきっかけに、学生部のスチューデント・ダイバーシティ・センター内に、「ICC（異文化交流センター）」、「アクセシビリティ支援センター（ARC）」に加え、ジェンダー・セクシュアリティに関するリソースセンターとして2017年4月に「ジェンダー・セクシュアリティ・センター（GSセンター）」を開設しました。

The Gender and Sexuality Center (GS Center) is a safer space and resource center for LGBTQ+ students and everyone who is interested in issues related to gender and sexuality, including allies to the LGBTQ+ community. In March 2015, a student group Diversity Waseda proposed the creation of the "first LGBT Student Center in Japan" at the Waseda Vision 150 Student Competition and won the President's Award. In April 2017, the Gender and Sexuality Center was established within the Student Diversity Center, along with the preexisting Intercultural Communication Center (ICC) and Accessibility Resources Center (ARC).



GSセンターでできること Services



個別相談
Individual
Counseling



コミュニティ
Community
Space



図書利用
The Library



イベント
Events

本館

戸山キャンパス
学生会館（30号館）1階103



予約不要

別館

早稲田キャンパス
10号館 2階213



他にもたくさん！
and many more!

Instagram



Website



note



Newsletter



ジェンダーとは

- ①ある文化圏において、しばしば出生時に割り当てられた性別に関連付けられる、態度や感情、行動などの社会的に構築された考え方。この場合は「世の中には男性と女性がいる」という性別二元論に基づく場合が多い
- ②個人が認識したり表現したりする自身の性別。この場合は、必ずしも性別二元論に基づかない

セクシュアリティとは

自分が性的または恋愛的に惹かれる相手が誰なのか、あるいは誰にも惹かれないのか。また、どのような性的な関係や行動を望むのか、あるいは望まないのかといった考え方

詳しくはP5へ



もくじ

- 1 アライサークルプロジェクトについて … 4
- 2 多様な性のあり方を【知る】 … 5
- 3 実際にあった困りごとやモヤッとしたことを【知る】 … 8
 -  このセクションでは、ジェンダー・セクシュアリティの多様性の包摂の観点からは不適切で傷つきをもたらしかねない言動を取り扱います
- 4 個人としてできることを【実践する】 … 11
- 5 幹部（運営に直接携わる立場）としてできることを【実践する】 … 13

ジェンダー・セクシュアリティのDE&Iとは

Diversity（多様性）：LGBTQ+を含む多様なジェンダーやセクシュアリティの存在を認識する

Equity（公正性）：偏見や差別による過ごしづらさをなくしていくためそれぞれの人や集団のニーズに合わせて「同じ」ではなく「フェアな」サポートや制度を整える

Inclusion（包摂性）：LGBTQ+を含む多様なジェンダーやセクシュアリティのあり方の人が安心して自己表現・自己実現できる文化や環境をつくる

アライサークル プロジェクト

目的

LGBTQ+を含む、すべての人が過ごしやすいサークル・課外活動の場づくりを推進する

企画の背景

ジェンダー・セクシュアリティに関するDE&Iが何故サークル活動や課外活動において必要かという点、本学のサークル活動では、以下のような課題が見受けられるからです

- ①性別二元論・シスジェンダー*至上主義に基づく制度や言動 *詳しくはP6
更衣室や合宿の部屋割りで、「女性用」と「男性用」だけを用意することで、男女以外の性別や、同性間でも個人のプライバシーや快適さが十分に考慮されていないことがあります
- ②（異）性愛規範
サークルや課外活動の懇親会などの会話の中で恋愛話や性的な話が交わされることがあります。そこでは全ての人が異性との恋愛や性行為をすることが当たり前だとされており、その結果、同性が好きな人や恋愛・性行為に興味のない人が無視されることがあります
- ③偏見に基づく性差別
「男性は弱音をはいてはいけない」「女性はリーダーには向かない」といったジェンダーに基づくステレオタイプが存在し、これにより個人の違いが無視されていることがあります

課題の原因として考えられること

上記課題の問題点に気づくことができない、もしくは気づくことはできるものの、その解消や緩和の方法が分からない原因として以下の点が考えられます

- 「LGBTQ+の人が身近にいない」という思い込みがある
- 「LGBTQ+の人以外であっても悪影響を受けうる」ということが認識されていない
- ジェンダー・セクシュアリティに関する知識を得る機会がなかった

サークル活動や課外活動は
学生の主体性がベースとなっているので、
活動に参加している学生全員の意識を変えることが
求められています



多様な性のあり方を【知る】

前述の原因を解決するために多様な性のあり方に関する知識を得ることは大切です。LGBTQ+の個人を肯定する環境をつくるためにも、まずは基本的な用語について知っておきましょう

性を構成する要素

※ここでの「ジェンダー」は性別二元論的なものを指さない

性自認 Gender identity

ジェンダーに紐づけ、自分自身が誰であるかをどう理解しているか。
出生時に割り当てられた性別と「一致」する必要はない



性別表現 Gender expression

服装や行動などから表現する、自身のジェンダー



性的指向 Sexual orientation

どのようなジェンダーに紐づく要素（性自認や性別表現など）を持つ人に対して性的魅力を感じるか、および感じないか



恋愛指向 Romantic orientation

どのようなジェンダーに紐づく要素（性自認や性別表現など）を持つ人に対して恋愛的魅力を感じるか、および感じないか

出生時に割り当てられた性別 Sex assigned at birth

生まれたときに、しばしば外性器など目視できる範囲での
身体の性的特徴を踏まえて、医師や助産師などによって割り当てられた性



基礎用語

※ここにあげた以外にもたくさんの性のあり方が存在します
ここでは簡潔に説明しています

◆LGBTQ+

性に関するアイデンティティに対して抑圧・差別を受けてきた人たちが団結するために使用し始めた言葉。Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender, Queer, and Questioning の頭文字にそれ以外の性別規範に沿わない様々なジェンダー・セクシュアリティのあり方を包摂する意味を持つ「+」がついている

◆LGBTQ+学生のアライ (Ally)

LGBTQ+を理解し、共感するという考え方、あるいはそうした立場を明確にしている人だと、早稲田大学GSセンターでは認識している ※これ以外にもアライの考え方は存在する

◆クィア (Queer)

社会的規範の枠外にあるという状態の性のあり方



◆プログレス・プライド・フラッグ
LGBTQ+ のシンボルとして世界的に使用されています

◆クエスチョニング (Questioning)

自分の性のあり方が不確かな人、もしくはそれを問い直している状態。この状態を通過点と捉えている人、この状態であり続けることを選ぶ人、この状態が持続的な自身の性のあり方だと認識する人もいる

◆レズビアン (Lesbian)

女性もしくはそれに近いアイデンティティをもっていて、ほかの女性に性的および恋愛的魅力、またはそのどちらかを感じる人

◆ゲイ (Gay)

男性もしくはそれに近いアイデンティティをもっていて、ほかの男性に性的および恋愛的魅力、またはそのどちらかを感じる人

◆バイセクシュアル (Bisexual)

二つ以上の性別に性的魅力を感じる人。また、二つ以上の性別に恋愛的魅力を感じる人を「バイロマンティック」と言うが、バイセクシュアルを二つ以上の性別に性的・恋愛的魅力を感じる人の総称として認識しているバイ当事者もある

◆アセクシュアル (Asexual)

他人に対して性的な魅力をほとんど、もしくは全く感じない人

◆アロセクシュアル (Allosexual)

他者に性的な魅力を感じる人

◆ヘテロセクシュアル (Heterosexual)

主に女性が男性の性自認を持ち、自身とは異なる性自認の人に性的な魅力を感じる人

◆アロマンティック (Aromantic)

他人に対して恋愛的魅力をほとんど、もしくは全く感じない人

◆アロロマンティック (Alloromantic)

他者に恋愛的魅力を感じる人

◆ヘテロロマンティック (Heteroromantic)

主に女性が男性の性自認を持ち、自身とは異なる性自認の人に恋愛的魅力を感じる人

◆トランスジェンダー (Transgender)

性自認と出生時に割り当てられた性別が一致しない人

◆ノンバイナリー (Non-binary)

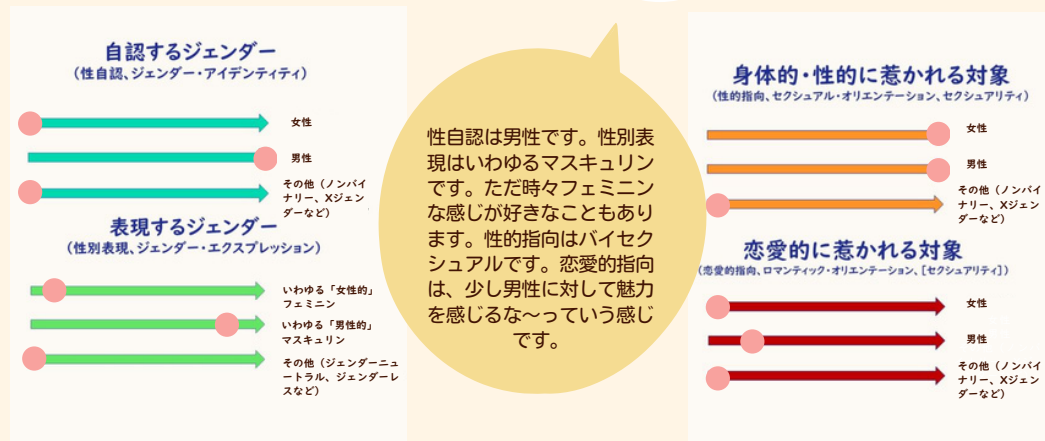
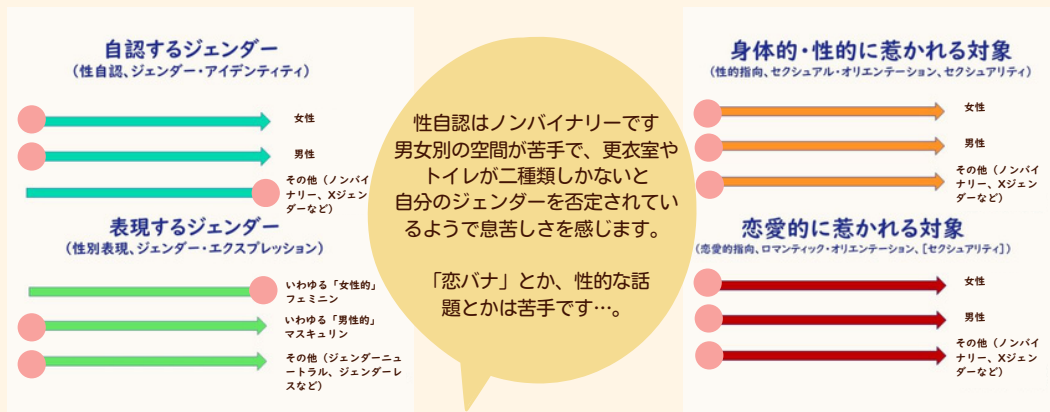
性別二元論から離れ、男性、女性のいずれでもない性自認を持つ人。似たコンセプトに日本で生まれた「Xジェンダー」もある

◆シスジェンダー (Cisgender)

出生時に割り当てられた性別と性自認が一致している人

人物例

この図は、性のあり方には複数の要素の組み合わせがあり、複雑で多様であることを教えてくれます。それぞれの要素について矢印の上に丸が描かれており、丸が矢印の右側にいくほど、よりその要素を強く感じることを示します。丸がどこに位置するか、またはどこにも位置しないかなどを理解することで、性のあり方を多層的に、二極的ではないものとして捉えることができます



これまで自分の性のあり方を考えたことがなかった人も、グラフにあてはめて試してみてください★

実際にあった困りごと やモヤッとしたことを 【知る】



このセクションでは、ジェンダー・セクシュアリティのDE&Iの観点からは不適切で傷つきをもたらしかねない言動を取り扱います

早稲田大学のサークル・体育各部の活動に参加したことのある学生・卒業生（他大学生も含む）やサークル・体育各部の運営関係者（学生以外も含む）を対象に、ジェンダー・セクシュアリティのあり方を問わず回答可能なアンケートをGSセンターWebサイトを中心に広報し、オンラインで実施しました。回答の一部を掲載します
（実施期間：2024年6月3日～7月31日、回答者数：27件）

※本アンケートにおけるサークル・体育各部の活動とは、実際のサークルにおいての活動はもちろん、打ち上げや懇親会、新歓活動（ピラ配り、ご飯会、体験入会）、その他サークル・体育各部に関するメッセージのやり取りを含みます

※文意が変わらない範囲で、文章を整えた箇所があります

Q サークル・体育各部での活動の中で、ジェンダー・セクシュアリティの多様性の包摂の観点から困ったことはありますか？（複数選択可 N=23）

「彼氏/彼女いるの？」

「彼氏/彼女にしたい男子/女子ランキング」など異性愛前提の言動があった（n=14）

自分自身や、その場にいる人全員が
恋愛・セックスをするのが前提で話を進められた（n=12）

性別によって役割分担がなされた（n=10）

ジェンダーステレオタイプを押し付けられた（n=9）

入会フォームや新歓参加申し込みフォームに二元論的な性別欄しかなかった（n=8）

その他：自身の性自認と反する人称が使われた／本人の希望を聞かず合宿の部屋割りが二元論的なジェンダー（女性・男性）別に割り振られた／大会出場枠が二元論的なジェンダー別だった／衣装、ユニフォーム、式典服が二元論的なジェンダー別に指定された

以下、前述の質問の自由記述から抜粋

偏見に基づく性差別

文化系サークルの発表会で、女性差別的な発言を繰り返す男性が注意されることなく発表の場を得た。その際、女性は「来ない方がいい」と発表の場から排除された。

発表中には「出産は女性の本能的義務」という発言もあった

幹事長選出時に男性がデフォルトで選ばれる雰囲気があり、女性リーダーが誕生しにくい状況

サークルメンバーに対してジェンダーやセクシュアリティに関する発言の誤りを指摘しても軽視される。「マンスプレイニング」(※1)を受けることも

ジェンダー規範に対する息苦しさ

男性はスーツ、女性はドレスという衣装規定やレディーファーストなどのルールに疑問を感じつつ変えられなかった

男性メンバー同士が「男文化」を強調する行動に違和感がある

性別二元論・シスジェンダー至上主義に基づく差別

シスジェンダーでない「と思われる」人を、それを理由に入会を拒む投票があった

男女別で活動を強制される場面があり、異性愛規範やジェンダー規範が根強い環境がある

ダンスで「女振り」「男振り」が一方的に二元的に割り振られ、個々の好みは考慮されない

説明会で「女子の先輩がいればよかったね」と言われたことや、性別で班分けされるなど、無意識の「女」としての扱いに息苦しさを感じた

先輩から後輩へのくん/ちゃん付け(自己紹介のときに呼び捨て・さん付け・あだ名のいずれかを希望すると言ったが定着しなかった)

※1主に男性として社会生活を送っている人が、女性として社会生活を送っている人に対して、相手の専門性、知識や経験を軽視し、頼まれてもいないのに上から目線で unnecessary な説明をする行為。「Man」と「explain」を合わせた造語。

Q

前質問で上記の困ったことが起因して、入会（入部）したかったが諦めた、入会したが退会（退部）したことはありますか？

入会・入部したが現在退会・退部を考えている

11.1%

はい
33.3%

新歓体験会で男女別の更衣室に
強引に分けられて
居心地が悪く感じ、
そのサークルへの所属を諦めた*

同性の恋人がいるのに
「彼氏いるの？」と聞かれて
セクシュアリティを「隠す」ことに
心理的負担を感じる*

いいえ
55.6%

(N = 18)

学生としてサークル・課外活動を楽しむ機会の損失につながっている！

サークルとして興味・関心のあるメンバーの損失につながっている！

よくある勘違い

**自分たちのサークルにLGBTQ+の人はいないし、要望もないから
サークルでの配慮は必要ない**

実際は...

「もしカミングアウト（自身がLGBTQ+であることを他者に伝えること）して
否定的な姿勢を示されたらどうしよう。居づらくなるかも」

「アウティング（本人の同意なくそれを他言・暴露すること）されるのが怖い」
このような理由で周りに言っていない人も多くいます

**「いる・いない」にかかわらず、LGBTQ+の人も、
そうじゃない人と同じように心地よく過ごせるサークルづくりが必要**

個人としてできることを【実践する】

ミスジェンダリング（※2）を避けるためにできる工夫

「外見上の情報などから推定された性別＝その人の扱われたい性別」とは限りませんし誤った性別として扱ってしまうことで、誰かを傷つけてしまうかもしれません

つつい言ってしまいがちな言葉を**ジェンダーニュートラル（中立的）な表現**に言い換えてみましょう



気が利くね
美意識高いね
度胸あるね

×女子力高いね／男気あるね

×彼女は
この人／〇〇さんは
文化構想学部で
社会学を
勉強しています



×癒し系男子

癒し系だね～笑

そこの
ハーフパンツの人

×お兄さん



TOILET

トイレの場所を聞かれたら
だれでも／女性用／男性用
すべてのトイレを案内する
特定の性別のトイレのみ案内すると
ミスジェンダリングとなる場合があります

※2 故意であるかに関わらず、トランスジェンダー、ノンバイナリー、Xジェンダーなどの人に
対してその人が望まない特定のジェンダーに関連付けられた言葉を使用したり、そのように扱うこと。
これはミスジェンダリング被害を受けた者本人の身体的・心理的安全を脅かす可能性のある危険な行為である

「恋バナ」でだれかを傷つけないための3 STEPS

STEP 1

「恋愛の話とか苦手じゃない?」「恋バナしてもいい?」
とその場にいる人へ同意をとる



STEP 2

「●●さんって恋愛とかする人?」と聞くことによって、
恋愛をするのが当たり前だという前提を崩す



STEP 3

「彼氏／彼女いるの?」「好きな異性のタイプは?」を
「パートナー／恋人はいるの?」「好きなタイプは?」と言い換える

（異）性愛規範的な発言があったら
「まあ全員がそうとは限らないけどね～」と
修正するとGOOD

カミングアウトされた際に
アウティング（※3）をしない

※3 本人の同意なしに、その人の性自認・性的指向・恋愛の指向、ジェンダーヒストリー（ある人が出生時に割り当てられた性別、名前、通っていた学校がある性別に絞られたものだった、などのその人に関連するジェンダー・トランジションなどにまつわる過去の情報）、病歴（HIVステータスなど）などを暴露する行為。これはアウティング被害を受けた者本人の身体的・心理的安全を脅かす可能性のある危険な行為である

幹部としてできることを【実践する】

普段の活動・新歓編

- 活動におけるグラウンドルール（参加者の安全性を担保するための共通認識としてのルール）を設ける
呼ばれたい名前で呼び合う、性や恋愛に関する話題を出すときはその場にいる人の同意をとる など
- 呼ばれたい名前を書く名札を配布する
- 不必要な性別記入欄は廃止するか、「その他」「無回答」を設定する
どうしても性別記入欄が必要な場合、なぜ必要なのか、この情報はどの範囲に共有されるのかを明記する
- できるだけ個室更衣室やだれでもトイレのある活動場所を予約する
- 新歓体験の案内などに、会場内の個室更衣室やだれでもトイレの有無を記載する
個室更衣室がない場合も、着替えは任意であること、トイレでの着替えが可能であることを明記する
- 衣装、ユニフォーム、式典服、演劇などの「女性役」「男性役」やダンスジャンルにおける「ガールズ」「ボーイズ」などは、法律上の性別にかかわらず選べるようにし、周知する
- 大会などの性別二元的な性別で分けられた出場部門についてメンバーから相談を受けた場合、その運営組織の取り組みやガイドラインを調べたり、問い合わせる
- メンバーからジェンダー・セクシュアリティに関する相談を受けた場合、どこまで情報を共有していいかを本人に確認する
- このガイドブックやGSセンターの存在をメンバーに周知する

実践例

入会フォームの性別欄に
「その他」と「答えない」を追加した
（アンケートより）

性別二元的なジェンダー比率を
入会希望者に問われた際、
「女子『として私が認識している人』は～」
と答えた
（利用者より*）

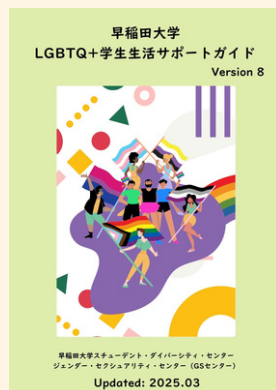
性別二元的なジェンダー比率を
サークル情報誌に掲載する際、
未回答として提出していた
（アンケートより）

合宿編

- 宿泊先を選ぶ際に、個室が用意できるか、個別浴室があるかを確認する。明記されていない場合は仲介業者や宿泊先に問い合わせる
- 宿泊先に大浴場しかない場合は、個室備え付けの浴室を確保して使用スケジュールを組むか、大浴場を時間指定制で個別利用ができるかを宿泊先に相談する
- 合宿申し込みフォームで大部屋に加えて個室も選択肢に用意する

▲選択肢を用意した理由として「LGBTQ+に配慮して」などと言ってしまうと、個室や個別浴室を使う人全員がLGBTQ+の人であるという限定的で事実と異なる解釈に繋がりがねず、希望者が利用しづらい状況になるかもしれません。「人と寝泊まりすることが苦手、身体を見られることが苦手な人もいるから」などの個人のプライバシーを配慮するような文言を使うようにしましょう

『早稲田大学LGBTQ+学生生活サポートガイド』
(GSセンター発行)には各セミナーハウスの
個室/個別浴室/だれでもトイレの対応可否の一覧が
掲載されています



実践例

当初、民間の宿泊施設は性別二元的な大浴場と大部屋しか用意されていなかったが
問い合わせたところ個室が用意された。

合宿申込フォームを①大部屋②個室③個室は希望しないが個室浴室希望
の三択で設定した（利用者より*）

*GSセンター利用者の声を本人の同意を得て掲載しています



サークル/課外活動での運営や行動について
気になることがある場合GSセンターの
個別相談を利用できます。お気軽にご利用ください



自分たちのサークルが実施している、または今後実施予定の取り組みを説明
会やSNSで対外的に発信すると、セーファーな活動場所を探す人にアプロー
チできます

MEMO

このプロジェクトは、LGBTQ+を含むすべての学生が安心して過ごせるサークルや課外活動の場づくりを進めるために、2023年春にGSセンターの学生スタッフが中心に立ち上げたものです

すべての学生が不安なく、安全で快適な環境で大学生活を送れるよう
このガイドブックをぜひ活用してください

アンケートに回答いただいた方々、学内各箇所、
その他本プロジェクトご協力いただいた皆様に
あらためてお礼申し上げます

『サークル・課外活動 ジェンダー・セクシュアリティDE&Iガイドブック 個人・幹部としてわたしたちにできること』

2025年3月 発行
編集・発行者 早稲田大学スチューデント・ダイバーシティ・センター
ジェンダー・セクシュアリティ・センター（GSセンター）
問い合わせ先 gswaseda@list.waseda.jp
Webサイト <https://www.waseda.jp/inst/gscenter/>
コピー・転載・引用などされる際には、必ず出典の表記をお願いします

